

体育（小学校）

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

◆ 各種の運動の特性に応じた体育の授業づくり

6つの運動領域における各種の運動は、楽しみ方や解決すべき課題やその解決方法が異なる。そのため、各種の運動で得られる楽しさや喜び、そこで解決すべき課題、それらの解決方法に応じた行い方を理解することができるようにする。また、それらの理解は、各種の運動の基本的な動きや技能を身に付けることに効果的である。

◆ 3つの資質・能力をバランスよく育む学習過程の工夫

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力とは、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つである。これらの資質・能力を育成するためには、児童の発達の段階、能力や適性、興味や関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待つ	語らせつないで	認め励ます
<p>■ 場やルールの工夫</p> <p>苦手な児童の実態を踏まえた、簡単な場やルールの設定</p> <p>◇ 手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔らかいボールを使う ・ コートの広さを狭くする ・ 簡易化したゲームを行う ・ 低学年の運動遊びを基にした授業づくりを行う ・ 児童が自らルールや場を工夫するまで「待つ」 	<p>■ 「みる」「支える」「知る」の多様な関わり方</p> <p>「すること」だけでなく、「みる、支える、知る」の視点を持ち、課題解決することができる学習過程</p> <p>◇ 手立ての例</p> <p>友達が運動している様子について、「みる」視点や「みる」場所を明確にしておく</p>	<p>■ 「認め励ます」機会を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「できる」ようになる過程を「認め励ます」 ・ チームの一員としての所属感を高める工夫 <p>◇ 手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スモールステップの学習にする ・ チームの友達どうして認め合う場の設定

運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ることが大切です。その際、共生の視点を重視して改善を図るようにしましょう。



小学校体育（運動領域）指導の手引（スポーツ庁 HP）



○ ICTの活用について

○ 自己の課題を見付ける例

- ・ 自己の運動の様子について、ICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付けること。
- ・ 過去の自分の記録や平均値等と比較して自分の伸びを実感すること。

○ 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶ例

- ・ 作戦を共有するために、ICT機器を作戦ボードとして活用すること。

○ 自己や仲間の考えたことを他者に伝える例

- ・ 自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、記録した動画などを使って、他者に伝えること。

体育・保健体育の指導におけるICTの活用について（文部科学省 HP）



保健体育科（中学校）

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

運動の多様な楽しみ方を共有できるようにする

体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、原則として男女共習で学習を行うことが求められる。その際、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ったりするなど、指導方法の工夫を図ることが大切である。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
<p>■「面白そう!」「うまくなりたい!」をもたせる</p> <p>単元のゴールや単元全体の流れ、目指す姿等から一人一人に見通しと目標をもたせる</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや教具等の工夫（誰もが楽しめること） ・単元のゴールの共有 ・評価規準や評価方法等の共有 	<p>■語るための環境と視点</p> <p>課題発見、課題解決の視点をもたせ、技能等に関わらず誰もが発言できる環境をつくる</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの中心に、全員が発言できる材料（映像資料やデータ等）を準備する ・「どこを見ればいいのか」「何について考えればいいのか」を明確にする 	<p>■個の成果を称賛</p> <p>チームへの称賛だけでなく、個の成果（できるようになったこと）を称賛する</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこが（何が）どのようにできるようになっているのか具体的に称賛する ・結果だけでなく、取組みの過程への称賛も忘れずに ・仲間どうしで認め合う場を設定する

運動技能が高い生徒だけが楽しむ学習になっていませんか？運動技能の高い生徒だけが発言する話し合いになっていませんか？体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学習に取り組むことができるようにする工夫が必要です。



○ ICTの活用について

保健体育科におけるICTの活用は、育成を目指す資質・能力に応じた方法として、技能では、タブレットによる動画撮影に加えて、上空からの撮影、実施者視点の撮影など、他視点化をサポートする周辺機器の活用や、思考力を視点からは、プログラムやソフトの活用、電子ポートフォリオとしての学習成果の効果的な収集と分析などが考えられる。

○どの領域でICTを活用したか。

領域等	回答
体づくり運動	15%
器械運動	65%
陸上競技	38%
水泳	6%
球技	54%
武道	23%
ダンス	75%
体育理論	52%
保健	83%

○ICTの活用方法について

活用方法	回答
運動の行い方（手本など）の映像を見せた	86%
自分やチームの動きを撮影し、その映像をもとに交流した	91%
シュート回数などのゲームデータを入力し、その記録をもとに課題等を検討した	5%
プレゼンテーションソフト等を使って、授業を行った	62%
本時の内容に関わる映像等を見せた	78%
生徒が自分やグループの考えをプレゼンテーションソフト等でまとめたり、発表したりした	17%
アンケートや振り返りを集約した	25%

【令和3年度体力向上の取組み等に関するアンケートより（中学校）香川県教育委員会 2022.2】